

子どもたちの豊かな学びと育ちをめざして

教育指導課

課長 多々納 雄二

今年 4 月に実施された「平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査」について、本県の結果とその分析をお届けします。7 月下旬に文部科学省から結果が返却され、各市町村教育委員会、各学校におかれましては、夏季を中心に結果分析が行われたことと思います。改めて申し上げるまでもなく、本調査の目的は児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策や各学校における教育活動について成果と課題を検証し改善を図ることにあります。今回の調査では、教科学力の状況もさることながら、質問紙の中で小学生で「算数は好きだ」「算数はわかる」とした児童の割合が上昇し、「話し合い活動」の充実状況も見受けられるなど、一定の課題改善が図られたことが窺われる一方で、「発展的な学習指導」が十分に機能していないこと、及び「中学生の家庭学習時間が少ない」ことなどについて、引き続いて課題が見られました。このことについては、過日県内 5 会場で開催した学力育成会議において話題にし、19 市町村教委のご意見を伺いながら今後の学習指導の在り方について検討したところです。12 月 10 日、11 日には県独自の学力調査を小中学校で実施します。全国調査結果の検証によって各学校で取り組まれた学習指導等の改善が有効に作用し、それが県調査を通してさらに検証され、子どもたちの豊かな学びと成長につながっていくことをめあてに、全国及び県の調査が有効に活用されることを期待しております。

さて、学習指導要領が 10 年ぶりに改訂され、来年度からは小学校で、令和 3 年度から中学校で全面実施され、令和 4 年度からは高等学校において年次進行で実施されます。その周知と準備等のため、前年の夏には小学校で、また本年夏から秋にかけて中学校、高校等対象で、学習指導要領に関する各教科等説明会を開催しました。なお、高校の説明会は次年度夏にも予定しています。

今回の学習指導要領改訂の主なポイントの一つに、『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善の推進があります。それがめざすのは、次世代を切り拓く子どもたちに必要とされる資質・能力の育成です。身に付けさせたい資質・能力は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の 3 つの柱に整理されていますが、例えばその中の「知識及び技能」については、児童生徒が学習の過程を通じて個別の知識を学ぶだけでなく、そうした新たな知識が既得の知識及び技能と関連付けられ、他の学習や実生活の場面でも活用できるような「生きて働く」確かな知識として習得されるようにしていくことが重要とされています。このような知識の質を高めるには、「習得→活用→探究」という学びの過程を充実させる必要がありますが、それが『主体的・対話的で深い学び』の視点による授業改善ということになります。こうした授業改善こそが、児童生徒の学習意欲の向上や学びの進化・深化につながっていくはずです。各学校におかれては、調査の結果を参考にしつつも、子どもたちの学びと成長を主眼に望ましい授業づくりに取り組んでいただきたいと考えています。ご協力をよろしくお願いいたします。

人の学習意欲が高まるのは、その内容に興味・関心のある時、自分に役立つ時、誰かのためになる時といった考えもあります。何を学ぶのかはもちろん、何のために学ぶのか、学びが何につながるのかといった観点で、子どもたちに学びを提供、提示することに心がけていきたいと考えます。学びの主体である子どもたちに、よりよき学びの場・機会の共創に協力をお願いいたします。

令和元年度全国学力・学習状況調査の結果分析

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査の結果について島根県と全国を比較し、分析しました。「令和元年度全国学力・学習状況調査島根県（公立）の結果概要」については、教育指導課WEBサイト（<https://www.pref.shimane.lg.jp/kyoikusido/zenkokugakuryoku.html>）に掲載しておりますので、ご覧ください。

この教育情報紙では、学校現場の皆さんに特に意識していただきたいことにしぼって掲載しますので、各校での分析や教育活動の改善に役立てていただければ幸いです。

また、近日中に島根県教育センターから「全国学力・学習状況調査の結果を生かし指導の改善・充実を！」が配付されます。ぜひ参考になさってください。

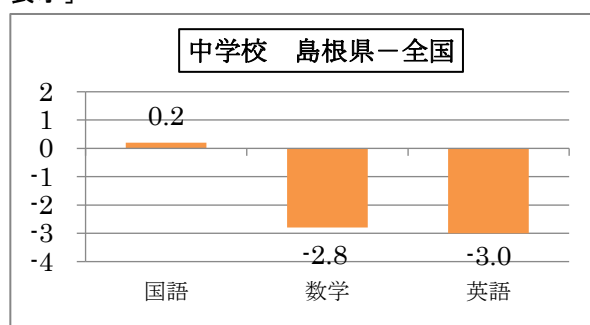
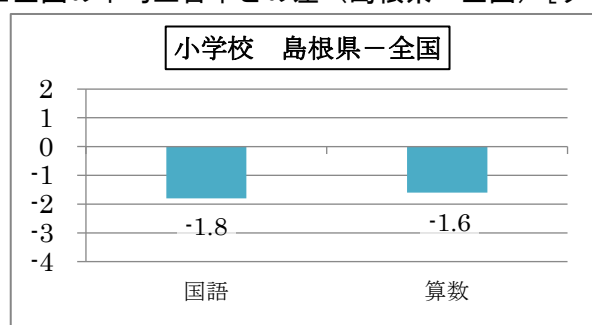
1 教科に関する調査の結果

（1）各教科の平均正答率

小学校	平均正答率（％）		
	島根県	全 国	差
国語	62	63.8	-1.8
算数	65	66.6	-1.6

中学校	平均正答率（％）		
	島根県	全 国	差
国語	73	72.8	0.2
数学	57	59.8	-2.8
英語	53	56.0	-3.0

■全国の平均正答率との差（島根県－全国）[グラフ表示]



（2）結果の概要（島根県と全国の平均正答率との比較）

今年度調査からA問題（知識）とB問題（活用）を分けずに一体的に問う問題となり、経年変化での分析が難しくなったため、全国平均との比較・分析を中心に行っています。なお、文部科学省は、正答率等の±2ポイントは誤差の範囲としておりますことを申し添えます。

- 小学校国語、算数、中学校国語においては、全国平均並みであった。
- 中学校数学、英語においては、全国平均を下回った。
- 小学校国語では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域では、全国平均並みであったが、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」では、全国平均を下回った。
- 小学校算数では、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域では、全国平均並みであったが、「量と測定」では、全国平均を下回った。
- 中学校国語では、全ての領域で全国平均並みであった。
- 中学校数学では、「図形」の領域では、全国平均並みであったが、「数と式」「関数」「資料の活用」では全国平均を下回った。
- 中学校英語では、「読むこと」の領域では、全国平均並みであったが、「聞くこと」「書くこと」では、全国平均を下回った。

(3) 各教科の分析

各教科の正答数分布、学習指導要領の領域等による正答率等については、この情報紙の最終部分に掲載しておりますので、ぜひご確認ください。

なお、今年度から各教科の概要資料の様式を変更し、県内の子どもたちの正答率上位2問と下位2問を取り上げています。これは、この学力調査問題を再度ご確認くださいという気持ちからです。全国学力調査の問題は、今、国が求めている各教科の力を図るものであることから、島根の子どもたちの学力における強みと弱みをご確認いただきたいと思います。

各教科の分析において、今後の学習指導において留意していただきたい点は以下のとおりです。各学校の実態をもとに、参考にさせていただきますと幸いです。

【小中、各教科共通】

- ・算数・数学においては、計算問題などの反復練習を行う授業については概ね取り組まれている。
- ・発展的な学習の指導や実生活における事象との関連を図った学習への取組は不十分であり、改善の必要がある。

【小学校国語】

- ・習得した語彙を、日常生活の話す、書くなどの場面に活用していこうとする働きかけを充実する必要がある。
- ・効果的に考えを伝えるために、必要な情報を的確に要約して書いたり、自分の考えを理由も含めまとめたりする活動が必要である。

【小学校算数】

- ・問題を考える際に、問われている数量関係や図形の性質などを言葉や図、式等で表現する学習が必要である。
- ・グループ活動などの友達と考えを広げたり深めたりする際に、考えから結論に至るまでの過程を、図や式、言葉といった表現方法でまとめることが重要である。

【中学校国語】

- ・生徒が主体的に話したり書いたりする授業を今後も継続することが重要である。
- ・文章や資料を構造的に捉え、問われていることがどこに書かれているか把握する学習を意識的に取り入れる必要がある。
- ・ノート指導等を通して、楷書で正しく書くことに留意する必要がある。

【中学校数学】

- ・計算練習といった反復練習だけでなく、補充的な学習や発展的な学習に取り組む必要がある。
- ・問題を解く場面において、判断の理由を数学的に説明する場면을意図的に取り入れるとともに、批判的に考察する学習に取り組む必要がある。

【中学校英語】

- ・コミュニケーションを行う目的や場면을意図的に設定し、自分の考えを適切に表現する機会を増やす必要がある。
- ・聞いたことを書くといった技能を統合させた活動を多く取り入れる必要がある。

2 児童生徒質問紙・学校質問紙調査の結果

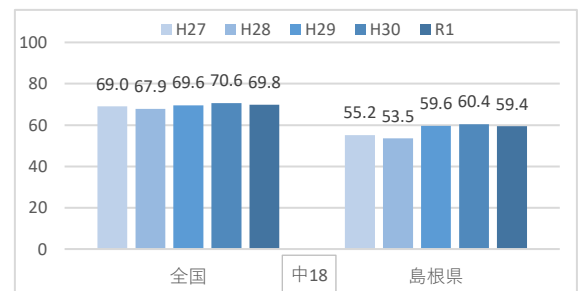
今年度は、過去に課題の見られた項目の回答状況からの分析も含め、児童生徒の意識・学校の意識について、「地域や家庭に関わること」、「教科等の学習に関わること」、「今後の取組に関わること」の3つの側面から分析を行いました。

(1) 地域や家庭に関わること

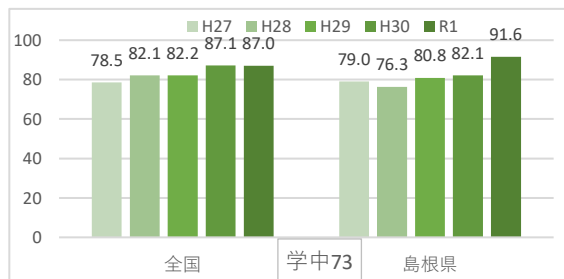
- 居住する地域の行事に参加している児童生徒の割合は、小中ともに引き続き全国に比べ上回っている。〔小23〕〔中23〕
- 「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」という児童生徒の割合は全国と同等である。〔小24〕〔中24〕
- △学校の授業時間以外に平日1時間以上勉強する中学校3年生の割合について、依然として全国との差が大きく、引き続き課題がある。〔中18〕
- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図ったり、生徒に対し家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたりしている学校は前年と比較して大きく増加した。〔学小59、60〕〔学中73、74〕

【回答状況】

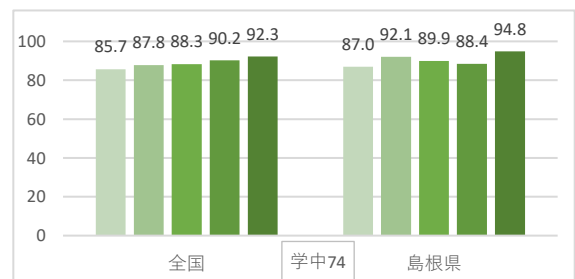
- 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強する〔中18〕
（3時間以上、2時間以上3時間より少ない、1時間以上2時間より少ないと回答した割合の合計）



- 家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図っている〔学中73〕



- 家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしている〔学中74〕



【分 析】

- 子どもたちは、これまでの「ふるさと教育」の充実により、地域の温かい環境のもと育てられてきている。「教育の魅力化」をより推進することで、子どもたちが地域に出かけ、自ら地域を素材として学ぶ機会をより多く設定していく必要がある。
- 中学生の家庭学習時間について、学校では、教職員の共通理解を図ったり、具体例を挙げながら学習方法を指導したりしており、改善が見られる。しかし、生徒の家庭学習時間の伸びが見られないことから、課題の出し方、課題の内容など検討する必要がある。また、授業で学んだことから新たな疑問が生まれ、自ら図書資料等を活用して調べたり、予習をしたりするなど、授業と家庭学習の好循環を生み出す授業改善が必要である。
- スマホなどの携帯端末の使用といった、家庭での過ごし方についても保護者と連携を図りながら指導していくことも必要である。

(2) 教科等の学習に関わること

○算数への関心等を尋ねる項目では、「算数の勉強は好きだ」という児童の割合は直近の5年間で最も高くなった。〔小46〕

○「算数の授業の内容はよく分かる」という児童の割合は昨年度に続き上昇している。〔小48〕

○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という児童の割合が全国を上回っている。〔小29〕

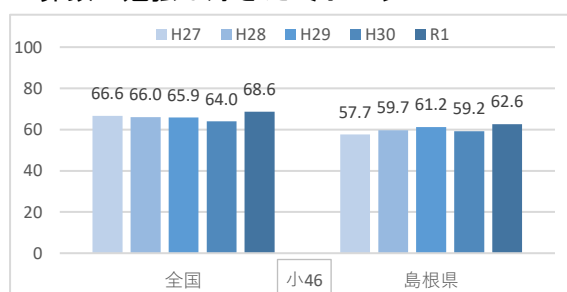
△算数の指導として、発展的な学習の指導に取り組んでいる学校の割合は全国に比べ低い状況にある。〔学小46〕

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」という生徒の割合が全国を上回っている。〔中34〕

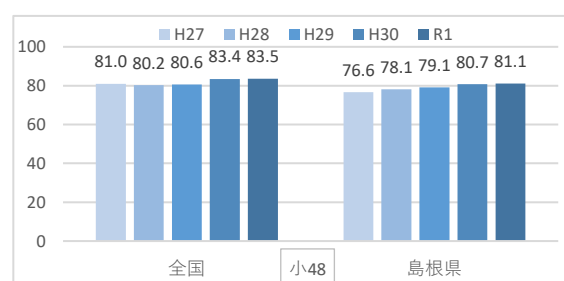
○「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」という生徒の割合が全国を上回っている。〔中37〕

【回答状況】

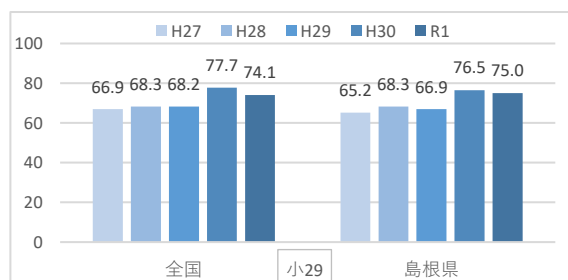
□算数の勉強は好きだ〔小46〕



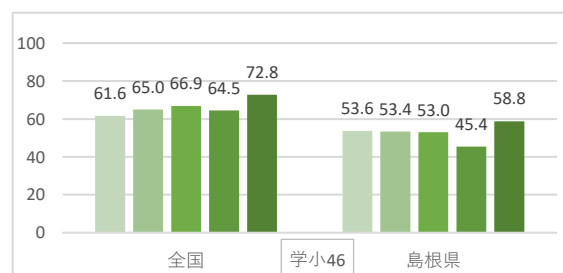
□算数の授業の内容はよく分かる〔小48〕



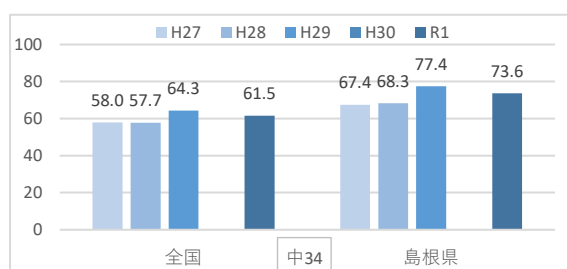
□学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている〔小29〕



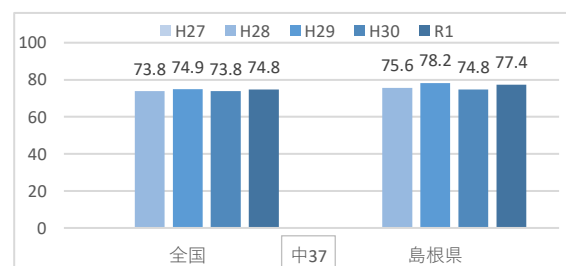
□算数の指導として、発展的な学習の指導を行っている〔学小46〕



□総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる〔中34〕



□1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ〔中37〕



【分 析】

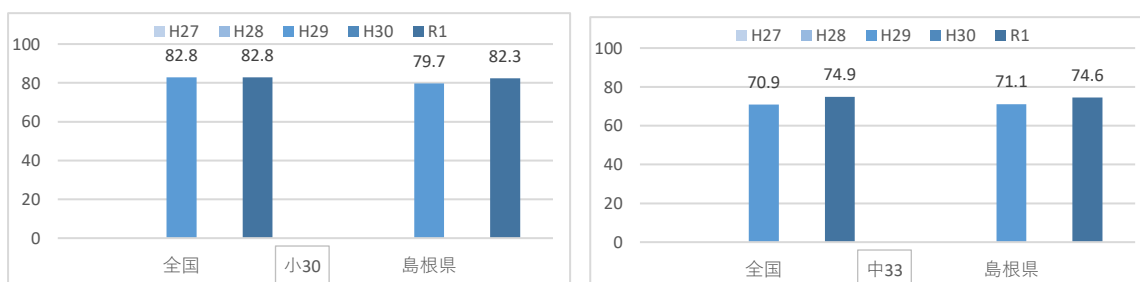
- 「算数の勉強は好きですか」という項目で、算数授業改善推進校事業を始めた平成 28 年度以降、一番高い数値であった。また、「算数の授業の内容はよく分かりますか」という項目でも、81.1%と平成 28 年度以降、一番高い数値となっている。これは、算数を切り口で行ってきた授業改善の一定の成果である。
- 「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の項目では、全国平均を上回るようになってきた。児童は考えを深めたり、広げたりすることができてきており、各学校において主体的・対話的で深い学びとなる授業が展開されつつある。
- 学校質問紙「算数の指導として、前年度までに、発展的な学習の指導を行いましたか」を見ると、全国と比較すると－14 ポイントの差がある。高正答率が少ない状況など課題は残っており、引き続き子どもの学習意欲を高められる授業改善を進めていく必要がある。
- 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思いますか」や「1・2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」という生徒質問紙項目の回答状況から、課題解決に向けて、自ら主体的な取組を行っていると感じている生徒が一定程度いることが明らかである。
- 今年度の数学、英語の平均正答率を見ると、総合的な学習の時間で行っている学習の効果が他教科に波及するまでに至っていない。各教科と総合的な学習の時間が好循環を生み出すような学習活動の工夫が必要である。

（３） 今後の取組に関わること

- 「授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている」という児童生徒の割合が増えてきている。〔小 30〕〔中 33〕
- 指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校が増えてきた。〔学小 15〕〔学中 15〕
- △各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を意識的に設けている学校の割合が全国より下回っている。〔学小 38〕〔学中 38〕

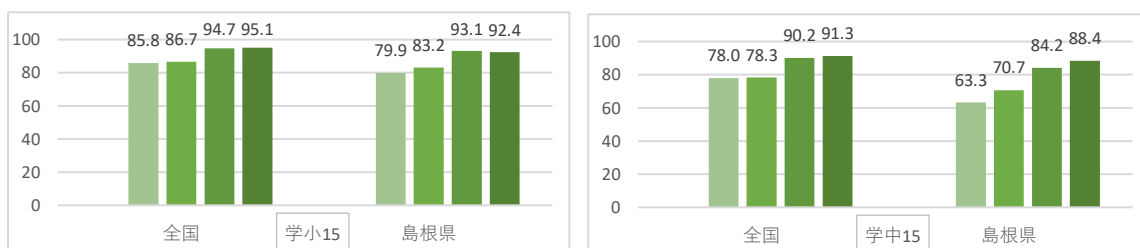
【回答状況】

⑫授業で学んだことを、ほかの学習に生かしている〔小 30〕〔中 33〕

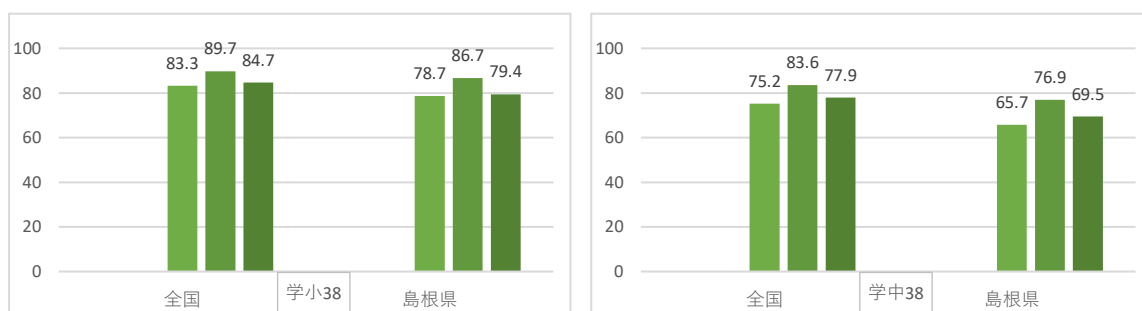


⑬指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している

〔学小 15〕〔学中 15〕



⑭各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けている
〔学小 38〕〔学中 38〕



【分 析】

- 島根の子どもたちが、ふるさと島根に愛着と誇りをもち、夢や希望に向かって挑戦できるよう、確かな学力をつける必要がある。
- 児童生徒は授業で学んだことをほかの学習に生かしているという意識が全国と比較すると高い。しかし、学校質問紙によると、各学校では、各教科等で身に付けたことを様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けている意識は低い。よって、各学校において、指導者が各教科等で学習したことを他の教科や普段の生活で生かされる場面を意図的に増やすことにより、子どもたちが学ぶことの有用性が理解でき、学ぶ意欲の向上につながると考えられる。

3 今後の対応

県教育委員会と市町村教育委員会が連携・協働し、以下の点も踏まえ、学力・学習状況調査結果分析に基づいた指導の改善を更に推進していきます。

各学校におかれましても、目の前の子どもたちが夢や希望に向かって挑戦し自らの人生と社会の未来を切り開いていけるよう、今学んでいることと地域や社会とのつながりが実感できる授業を展開し、一つ一つの知識がつながり、「わかった!」「おもしろい!」と子どもたちが感じられる授業に進化・改善していただきますようお願いします。

○「協調学習」による授業改善の推進

協調学習とは・・・児童生徒一人一人が、自分のもつ知識・技能を活用して答えを追究しつつ、他者の異なる視点や考えを学ぶことで、自分の考えをより質の高いものにしていくなこと。

○「教育の魅力化」を推進し、学校・地域が一体となって子どもたちを支える体制の構築

教育の魅力化とは・・・学校と地域社会がよりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、協働を図りながら、島根の教育をよりよいものに高めていくこと。

各教科の正答数分布グラフ及び分類・区分別集計結果

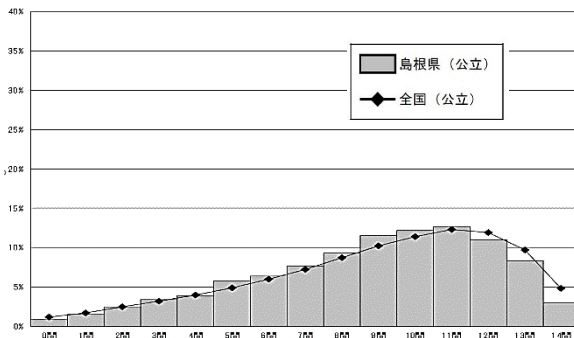
○：県が全国を2ポイント以上、上回るもの
 ー：県と全国の差が2ポイント未満のもの
 △：県が全国を2ポイント以上、下回るもの

グラフの設問数と分類・区分別集計結果の対象設問数が一致しないのは、1つの設問に複数の学習指導要領の領域が含まれているため

【小学校 国語】

- 高正答率者が全国と比較して少ない。
- 県平均正答率は62%であり、全国より1.8ポイント下回っている。領域別では「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の県平均正答率は49.8%で、全国より3.7ポイント下回っている。
- 必要な情報を得るために、本や文章全体を概観して効果的に読むことや、相手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認する質問をすることはよくできている。一方、漢字（同音異義語）を文の中で正しく使うことや、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	71.5	72.3	-0.8	ー
書くこと	3	55.4	54.5	0.9	ー
読むこと	3	81.7	81.7	0	ー
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	49.8	53.5	-3.7	△

正答率上位2問

- 梅干し作りについて知りたいことを調べるために、選んだ本の目次から、読むページとして適切なものを選択する
 （設問2二） 89.6%（全国 88.5%）
- 昼職人へのインタビューの中で、自分の理解が正しいかを確認する質問として適切なものを選択する
 （設問3一） 81.6%（全国 81.3%）

正答率下位2問

- 公衆電話について調べたことを報告する文章の中の言葉を、漢字を使って書き直す
 （設問1四（1）ウ） 22.6%（全国 35.6%）
- 公衆電話について、調べてわかった複数のことをまとめて書く
 （設問1三） 29.2%（全国 28.8%）

【参考】

[平成30年度 国語A]

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	1	90.8	90.8	0	ー
書くこと	1	72.4	73.8	-1.4	ー
読むこと	2	71.2	74.0	-2.8	△
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	8	64.5	67.0	-2.5	△

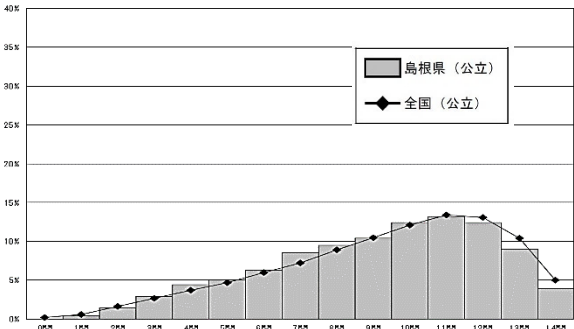
[平成30年度 国語B]

学習指導要領の領域等	対象設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	65.3	64.6	0.7	ー
書くこと	5	45.9	45.6	0.3	ー
読むこと	2	51.7	50.8	0.9	ー
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	0				

【小学校 算数】

- 高正答率者が全国と比較して少ない。
- 県平均正答率は 65%であり、全国より 1.6 ポイント下回っている。領域別では「量と測定」の県平均正答率は 50.0%で、全国より 2.9 ポイント下回っている。
- 棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取ることや、台形について理解することはよくできている。一方、示された計算の仕方を解釈し、減法の場合を基に、除法に関して成り立つ性質を記述することや、示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	7	61.7	63.2	-1.5	—
量と測定	3	50.0	52.9	-2.9	△
図 形	2	77.0	76.7	0.3	—
数量関係	7	66.8	68.3	-1.5	—

正答率上位 2 問

- 1980年から2010年までの、10年ごとの市全体の水の使用量について、棒グラフからわかることを選ぶ
(設問2 (1)) 95.3% (全国 95.2%)
- 長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ
(設問1 (1)) 94.0% (全国 93.1%)

正答率下位 2 問

- 減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめると、どのようになるのかを書く
(設問3 (2)) 30.0% (全国 31.1%)
- 減法の式が、示された形の面積をどのように求めているのかを、数や演算の表す内容に着目して書く
(設問1 (3)) 39.9% (全国 43.9%)

【参考】

[平成 30 年度 算数A]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	5	58.5	62.3	-3.8	△
量と測定	4	73.8	72.7	1.1	—
図 形	3	53.7	56.9	-3.2	△
数量関係	5	55.3	60.1	-4.8	△

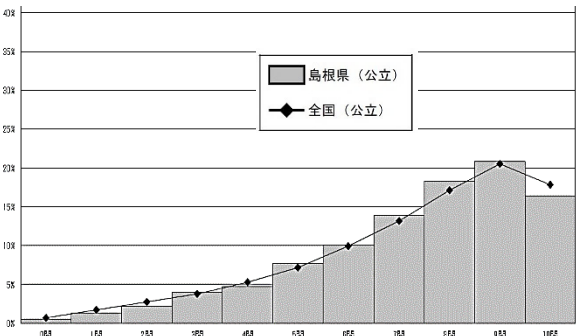
[平成 30 年度 算数B]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率 (%)			
		島根	全国	差	
数と計算	6	55.8	58.4	-2.6	△
量と測定	4	48.8	52.4	-3.6	△
図 形	2	55.9	59.9	-4.0	△
数量関係	5	42.8	45.1	-2.3	△

【中学校 国語】

- 全国とほぼ同じ傾向を示しているが、全問正答者が少ない。
- 県平均正答率は73%であり、全国より0.2ポイント上回っている。領域別では「話すこと・聞くこと」の県平均正答率は71.5%で、全国より1.3ポイント上回っている。
- 文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことや、書いた文章を読み返し、論の展開にふさわしい語句や文の使い方を検討することはよくできている。一方、封筒の書き方を理解して書くことや、文章の構造を捉え、問われていることがどこに書かれているかを理解することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領 の領域等	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	71.5	70.2	1.3	－
書くこと	2	83.0	82.6	0.4	－
読むこと	3	72.4	72.2	0.2	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	2	66.9	67.7	-0.8	－

正答率上位2問

- 「みんなの短歌」に掲載されている短歌の中から一首を選び、感じたことや考えたことを書く
(設問 1三) 92.0% (全国 91.2%)
- 意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する
(設問 3一) 87.4% (全国 87.4%)

正答率下位2問

- 「声の広場」への投稿を封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く
(設問 1四) 55.9% (全国 56.8%)
- 「海外に広がる弁当の魅力」で述べられている、弁当の魅力として適切なものを選択する
(設問 1二) 61.3% (全国 61.5%)

【参考】

[平成30年度 国語A]

学習指導要領 の領域等	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	74.1	75.2	-1.1	－
書くこと	4	73.2	73.9	-0.7	－
読むこと	4	77.4	76.7	0.7	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	21	76.7	76.5	0.2	－

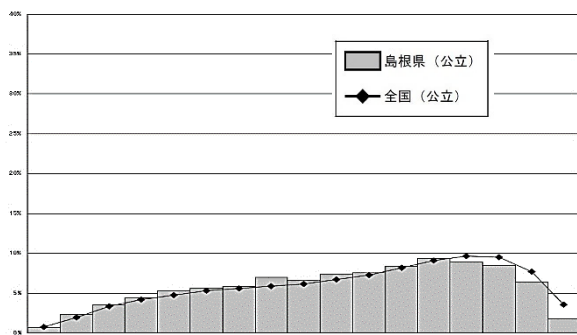
[平成30年度 国語B]

学習指導要領 の領域等	対象 設問数	平均正答率（％）			
		島根	全国	差	
話すこと・聞くこと	3	76.0	76.6	-0.6	－
書くこと	2	31.1	31.3	-0.2	－
読むこと	6	53.1	53.5	-0.4	－
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	1	50.1	49.2	0.9	－

【中学校 数学】

- 高正答率者が全国と比較して少ない。
- 県平均正答率は 57%であり、全国より 2.8 ポイント下回っている。領域別では「図形」の県平均正答率は 71.2%で、全国より 1.2 ポイント下回っているが、昨年度よりも差が縮まっている。残り 3 領域は全国より 2 ポイント以上下回っており、特に「関数」の領域は 3.6 ポイント下回っている。
- 平行移動や反例の意味はおおむね理解できており、県と全国平均正答率の差も小さい。一方、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（%）			
		島根	全国	差	
数 と 式	5	61.3	63.8	-2.5	△
図 形	4	71.2	72.4	-1.2	—
関 数	3	37.2	40.8	-3.6	△
資料の活用	4	53.9	56.3	-2.4	△

正答率上位 2 問

- $\triangle ABC$ を、矢印の方向に $\triangle DEF$ まで平行移動したとき、移動の距離を求める（設問[3]） 82.8%（全国 83.6%）
- ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ（設問[7]（2）） 77.1%（全国 77.2%）

正答率下位 2 問

- 冷蔵庫 B と冷蔵庫 C について、式やグラフを用いて、2 つの総費用が等しくなる使用年数を求める方法を説明する（設問[6]（2）） 28.6%（全国 34.7%）
- 冷蔵庫 A の使用年度と総費用の関係を表すグラフについて、点 P の y 座標と点 Q の y 座標の差が表すものを選ぶ（設問[6]（1）） 37.1%（全国 38.8%）

【参考】

[平成 30 年度 数学 A]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（%）			
		島根	全国	差	
数 と 式	12	68.7	71.1	-2.4	△
図 形	12	67.8	69.1	-1.3	—
関 数	8	52.6	55.5	-2.9	△
資料の活用	4	63.9	63.5	0.4	—

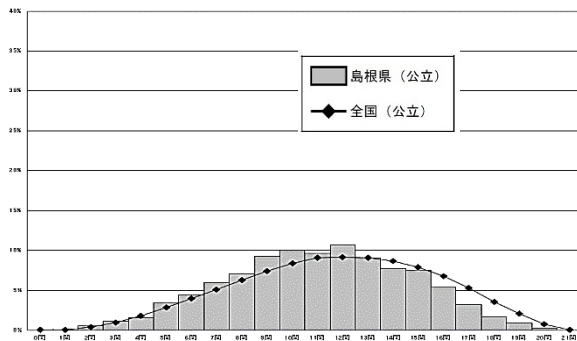
[平成 30 年度 数学 B]

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（%）			
		島根	全国	差	
数 と 式	4	49.1	51.4	-2.3	△
図 形	3	45.1	46.7	-1.6	—
関 数	3	51.1	52.8	-1.7	—
資料の活用	4	35.8	38.0	-2.2	△

【中学校 英語】

- 高正答率者が全国と比較して少なく、低～中正答率者が全国と比較して多い。
- 県平均正答率は53%であり、全国より3ポイント下回っている。領域別では「聞くこと」の県平均正答率は64.6%、「書くこと」40.9%で、全国より3ポイント以上下回っている。
- 短い英文の情報を正確に聞き取ることはおおむねできている。一方、与えられたテーマについて、自分の考えをまとまりのある文章で書くことや、聞いて把握した内容について、自分の考えを書くという複数の領域を統合して活用することに課題がある。

1 正答数分布グラフ



2 分類・区分別集計結果

学習指導要領 の領域	対象 設問数	平均正答率（%）			
		島根	全国	差	
聞くこと	7	64.6	67.9	-3.3	△
話すこと （参考値）					
読むこと	6	54.6	55.6	-1.0	－
書くこと	8	40.9	45.8	-4.9	△

正答率上位2問

- ☐ ある状況を描写する英語を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択する
(設問1 (1)) 90.1% (全国 91.1%)
- ☐ 教室でよく使われる英語を聞いて、その指示の内容を最も適切に表している絵を選択する
(設問1 (2)) 86.4% (全国 88.6%)

正答率下位2問

- ☐ 学校を表す2つのピクトグラム（案内用図記号）の案を比較して、どちらがよいか理由とともに意見を書く
(設問10) 1.1% (全国 1.8%)
- ☐ 来日する留学生の音声メッセージを聞いて、部活動についてのアドバイスを書く
(設問4) 3.6% (全国 7.6%)